

観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

1 学校の実情

対象は、1年生の生徒である。総合学科であるが、1年次は普通科と同等のカリキュラムに取り組んでいる。落ち着いた状況で学習ができており、標準的な学力を有している。対話的な学習に対して、前向きさをもって取り組む生徒が比較的多い。

2 その観点で行おうとした理由

本時は、中単元の最初に設定した授業である。本来、主体的に学習に取り組む態度は中単元の後半から最後の振り返りの時間に評価することが望ましいが、ここでは、これまでに学習した中単元の内容との関わりや今後の学びに対する意欲を評価することで、ヒトのからだの調節について見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを見取れるのではないかと考えた。

3 評価基準 【主体的に学習に取り組む態度】

①の評価

- A ヒトのからだの調節について、既習事項（ATPや細胞の呼吸等）と関連付けて運動前後の変化を考えることができています。
 - B ヒトのからだの調節について、運動前後の変化を考えることができています。
 - C ヒトのからだの調節について、運動前後の変化を考えることができていない。
- ※Cの場合は、再度考える時間を設けたり、別途気付かせたいポイントを示したワークシートを提示したりして、運動前後の変化を考えることができるように個別に支援する。

②の評価

- A ヒトのからだの調節について、新たな疑問をもつことができている。
 - B ヒトのからだの調節について、新たな疑問をもつことができている。
 - C ヒトのからだの調節について、新たな疑問をもつことができていない。
- ※Cの場合は、再度考える時間を設けたり、別途気付かせたいポイントを示したワークシートを提示したりして、新たな疑問を考えることができるように個別に支援する。

4 生徒の評価事例

ここでは、ワークシートの記述を分析することにより、評価を行う。

<ワークシートの例>

【実験 運動によるからだの状態の変化】

【目的】 運動前と運動後のからだの状態の変化を調べて、なぜそのような変化が起こるのかを考える。

【準備】 ストップウォッチ（または秒数をほかることができる時計）、
算り降り運動ができるもの（階段1段程度の踏み台）

【方法】 ① 2人1組となり、1人は運動者、もう1人は記録者となる。
② 運動者は、首や手首などの脈がとれる場所を探し、安静時の脈拍数を30秒間ほかる。記録者は時間をほかり、脈拍数を結果の表に記録する。
③ 運動者は3分間、算り降り運動を行う。
④ 運動直後に、②と同様に脈拍数をほかり、記録する。
運動後から1～5分後にも、②と同様に脈拍数をほかり、表に記録する。

【予想】

	安静時	運動時	1分後	2分後	3分後	4分後	5分後
脈拍数 (/30秒)							

【結果】 測定した結果は、次のようになった。(計測日: 月 日 期)

	安静時	運動時	1分後	2分後	3分後	4分後	5分後
脈拍数 (/30秒)							

【考察】 ① 運動中はからだのどこを動かしていたらうか。
(できる限り具体的に、かつたくさん場所を書き出してみよう)

② 運動前と運動後で脈拍数が変化したのは、からだのどこが変化したからだらうか。
また、そのような変化が起こったのはなぜだらうか。
(既習事項もふまえて、できる限り具体的にかつたくさん場所を書き出してみよう)

場所(どこが)	理由(なぜその変化が起きた?)

【+α探究】 脈拍数以外に、運動前と運動後でからだの中で変化のある場所を探して、どのように変化するかを調べてみよう。また、その変化が起こった理由を考えてみよう。
(既習事項とつながられるものはつけられるとおよいです)

場所(どこが)	変化(どのように)	理由(なぜその変化が起きた?)

【課題発見】 今回の【考察】や【+α探究】を考えてみて、からだのしくみで疑問に思ったことを書き出してみよう。また、その疑問に対する予想を書いてみよう。

疑問	予想

(1) ①の評価

ワークシートの【考察】②と【+α探究】における記述内容で評価する。

●【考察】②の場合

【評価Bの例】

脈拍数の変化が心臓の拍動によるものということに気が付いているが、理由において既習事項と関連付けされた記述ができていない。このことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

変化場所	理由
心臓	運動をして、血流がよくなったから。 また、呼吸が早くなったから。

【評価Aの例】

脈拍数の変化が心臓の拍動によるものということに気が付いているとともに、その理由を既習事項のATPに関連付けることができている。このことから、「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

変化場所	理由
心臓の筋肉	筋肉を収縮するために、筋肉の細胞でより多くのエネルギー（ATP）を消費したから。

【評価Cの例】

脈拍数の変化が心臓の拍動の変化によるものということに気が付いているが、理由を考えようとしていない。このことから、「努力を要する」状況（C）と判断できる。

変化場所	理由
心臓	未記入

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手だて】

未記入の生徒へは、再度考える時間を設け、粘り強く取り組む姿勢を求める。考えをうまくまとめることができない場合は、他の生徒や教師と対話しながら考えをまとめることができるように支援する。

●【+α探究】の場合

【評価Bの例】

運動前後における足の変化に気が付いているが、理由において既習事項と関連付けされた記述ができていない。このことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

場所	変化	理由
足	重く感じた。	筋肉を使ったから。

【評価Aの例】

運動前後における喉が渇くということに気が付いているとともに、その理由を既習事項の細胞の呼吸に関連付けて考えることができている。このことから、「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

場所	変化	理由
喉	少し渇いた。	細胞の呼吸などに必要な水分が使われて足りなくなったから。

【評価Cの例】

運動前後における足の変化に気が付いているが、理由が稚拙で深く考えようとしていない。なぜたくさん足を動かすと疲れるのかまで踏み込んで考えさせたい。このことから、「努力を要する」状況（C）と判断できる。

場所	変化	理由
足	疲れた。	たくさん動かしたから。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手だて】

未記入の生徒へは、再度考える時間を設け、粘り強く取り組む姿勢を求める。稚拙な記述の生徒へは、教師と対話しながらもう少し深いところまで考えることができるように支援する。

(2) ②の評価

ワークシートの「課題発見」における記述内容で評価する。

【評価Bの例】

新たな課題の発見をすることができているが、具体的な予想を立てることができていない。このことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

疑問	予想
なぜ意識していなくても体に変化が起こるのか。	意識していなくても勝手にそうなっているのかもしれない。

【評価Aの例】

新たな疑問をもつことができおり、かつその予想も具体的に立てることができている。このことから、「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

疑問	予想
速く脈拍が落ち着く人は、他の人と何が違うのか。	呼吸の速度や心臓の拍動の強さが関係している？

【評価Cの例】

今回の実験内容や考察とは関連のない疑問を提示しており、ヒトのからだの調節について考えることができていない。このことから、「努力を要する」状況（C）と判断できる。

疑問	予想
どうして利き手が右と左で違う人がいるのか。	未記入

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手だて】

未記入の生徒へは、再度考える時間を設け、粘り強く取り組む姿勢を求める。うまく疑問点を見いだすことができない場合は、他の生徒や教師と対話しながら考えをまとめることができるように支援する。